

パジャマと一張羅

おがわ 小川 さやか 民博 研究戦略センター

まるで「福袋」

「このシャツには、おそろいのズボンがあるはずよ」。

先進諸国において大量に廃棄される衣類は、リサイクルや貧者への支援をスローガンに慈善団体やリサイクル業者によって収集され、その多くは

発展途上国に輸出されている。世界最大の古着輸入地であるアフリカで、古着は庶民の衣料消費を支える商品である。

アフリカに輸入される古着の梱は、まるで「福袋」である。ひとつの梱には新品の最新ブランド品から何十年も筆筒に眠っていた流行遅れの品、破れて片袖のないものまでさまざまな衣類が混入している。そのため、アフリカの商人たちは品質と流行を基準に、晴れ着となるグレードA、普段着のグレードB、節約品や野良着となるグレードCの三つに古着を分類し流通させている。

土着の文化が新しい装いを生み出す

タンザニアで古着流通の調査をはじめた当初、筆者はこのランクわけがまったく理解できなかった。汗染みや襟のたるみなど品質の見わけ方はすぐにコツをつかんだ。しかし現地ファッションを理解するのは至難の業だ。生成りのワンピースは「汚れているよう



グレードCの古着は、農村の定期市においてたたき売りされる

にみえる」という理由でグレードCに分類されるが、擦り切れてペンキのシミがついたシャツは、「ゲットースタイル」としてグレードAになる。技巧を凝らしたブランド品が「ビショー (bishoo) : ちゃらちゃらした若者」の衣装としてグレードBに格下げされることも多い。

冒頭のことばは、パジャマの上着をグレードAに分類した商人に筆者が意見したものだ。それに対する返答は、「これと似た模様のキテング (アフリカン・プリント) がある」というものだった。なるほど、キテングを腰にまいた女性が羽織ったとき、パジャマはまったく新しいファッションに生まれ変わった。

タンザニアではすでに欧米のファッションがふかく浸透している。しかしグローバルなファッションは、入手可能なモノ (古着) の素材と土着の文化・暮らしによって再解釈される。衣類が最終的にゴミになるまでにリサイクルを実践しているのは、先進諸国の人びとが捨てた衣類に新しい価値を付加するアフリカの人びとなのである。